

壬生町本庁舎跡地等活用検討委員会 会議録

会議名：第3回壬生町本庁舎跡地等活用検討委員会

日時：令和元年12月25日（水） 午後3時～午後4時45分

場所：壬生町役場 2F 正庁

出席者：委員12名

三橋 伸夫（委員長）、大西 良雄（副委員長）、板橋 徳治、内山 功、白久 久雄、青木 隆司、瀬戸 洋子、関和 重行、広瀬 聡、金子 裕之、福田 倫子、早乙女 春香
（欠席者3名：川島 有由、神永 信男、中村 元子）

事務局5名

櫻井副町長、出井総務部長、大垣総合政策課長、玉田係長、黒澤係員

傍聴人数：報道関係者1社（1名）

【議事内容】

1 開 会

2 前回会議録の確認

出席委員に前回会議録の内容を確認いただき、後日報告予定となっていた古墳を訪問するツアーの概要について事務局から報告した。その他の質問はなかった。

3 あいさつ（三橋委員長）

本委員会で検討する庁舎の跡地利活用については、現在、WGを中心にアンケートやワークショップで出された意見の集約やアイデアの整理をしているところであるが、今回はその報告がメインで、具体的なプランの提示は次回になるとのことである。今年には台風19号の被害があり、また、少子化の進展による人口減少が加速しているとの報道がある中で、庁舎の跡地利活用による地域活性化は、これまで以上の重みが出てくるので、本日も活発な意見交換をお願いしたい。

4 議事

（1）住民アンケートの結果について

資料1「本庁舎跡地の利活用についてのアンケート調査」により、事務局からアンケートの結果概要を説明した。

（2）町民ワークショップ（第3回WGとの合同開催）の結果について

資料2「町民ワークショップ（第3回WGとの合同開催）の結果について」により、事務局からワークショップの結果概要を説明した。

（3）今後の検討スケジュールについて

資料3「本庁舎跡地等利活用の検討スケジュール（予定）」により、事務局から今後の検討スケジュール及び委員会の開催予定を説明した。

（4）県内（那須塩原市）の事例調査の結果について

別紙資料「那須塩原市まちなか交流センター」により、板橋委員、内山委員、白久委員から現地調査の結果が報告された。

自由で柔軟な運営により利用しやすい、無電柱化により駅前が広く感じられるなど、地域活性化に向けて参考になる面があるが、立地条件の違いがあることから、本委員会で検討する庁舎跡地の利活用では、那須塩原とは違った強みを活かしていく必要がある、との説明がなされた。

【意見交換・質疑応答】

- 副委員長) 那須塩原市の事例では、無電柱化の取組みは素晴らしいと感じた。災害に強いまちづくりにつながるし、まちなかが広く感じられる。建物のデザイン的にも優れていると思う。
- 委員長) 拠点施設である交流センターの設計デザインは、全国から公募して審査を行った結果、選ばれたものである。
- 委員) 那須塩原市の施設で、一つ課題があるのは、駐車場が50台分ほどしかなく、すぐ満杯になってしまうことである。
- 委員) 次回の第4回委員会では具体的な議論することのことだが、何をどこまで決めるのか？
- 回答) 次回は、敷地内の既存施設とオープンスペースの具体的な活用方法について、いくつか案を出させていただき、今年度時点での順位付けをすることを考えている。来年度に入ってから、周辺も含めてまちなか全体の活性化方法を議論し、敷地内の活用方法についても必要に応じて修正し、基本構想につなげていくこととしたい。
- 委員) この委員会の目的は、中心市街地全体の活性化ではなかったのか。まちなか全体の活性化を本格的に議論する前に、敷地内の活用方法を決めてしまうのはどうなのだろうか？もう一つは、この委員会では議題にしないとのことであるが、敷地内に役場支所を設置するかどうかで活用方法が変わると思うが、支所設置の有無はどこで議論するのか？
- 回答) 次回の第4回委員会では、敷地内の活用プランについていくつかモデルを提示して議論するが、あくまでたたき台であり、第4回で最終決定ではない。どこかで具体的な議論をスタートする必要があることから、まず敷地内の活用プランを示すものであり、来年度の第5回以降で周辺施設との関係も含めて中心市街地全体の活性化策を議論した上で、必要な修正を行うこととしたい。敷地内で残す建物については、かなりの面積がとれるので、有効な活用が図れると考えており、オープンスペースについても那須塩原市の施設と比較して十分な駐車場が確保できることから、旧壬生地区全体の駐車場として有効活用できると思う。
- また、支所については、第1回で説明したとおり、稲葉・南犬飼両出張所も含めた全体の配置を考える必要があることから、まずは行政において議論し、議会等にも説明していく予定であり、この委員会とは別の場で検討させていただきたい。この場所については、庁舎を移転するという趣旨からも、少なくとも建物全体を使った規模の支所は難しいと考えており、IT化の流れの中で、住民票のコンビニ交付の推進など利便性の向上に努めることとし、稲葉・南犬飼も含めた支所全体のあり方を考えていきたい。
- 委員長) 委員の質問の中には、オープンスペースに新たな建物を新築するかどうかの確認の趣旨もあったように思うが、その点はどうか？
- 回答) その点については、役場として新庁舎建設や六美町北部の区画整理事業など大規模事業が続くことから、財政的に厳しい状況であり、本庁舎跡地については、既存施設のリノベーションのみで考えている。先ほど申し上げたように、既存建物でかなりの面積が残ることから、それを活かせるプランを作っていくこととしたい。
- 副委員長) そうなると、築年が異なった建物が併存することになるが、問題ないのか？
- 回答) 耐震性は調査した上で、問題ない棟だけを残す予定である。プランを作成する中で、全体の配置を考え、現時点で残す予定の棟も取壊しに変更する可能性はある。
- 委員長) 既存施設のリノベーションで対応することのことだが、躯体以外の壁などは全面的に新しくすれば、見違えるような施設になると思う。
- 委員) この場所については、石崎家長屋門などの伝統的建造物に囲まれ、素晴らしいロケーションであることから、拠点として整備することで、活性化が図れると思う。
- 副委員長) 建物は既存施設のリノベーションだとしても、並行してまちなかの道路整備を行うことにより、まち歩きが楽しめるようなエリアにするといいいのではないかと。
- 委員) 那須塩原市のまちなか交流センターに比べて、敷地面積がかなり広いので、子育て世代が楽しめるような芝生整備などを行うとよいのではないかと。
- 委員) アンケートについて、町内全体の1,500人分は無作為抽出であり、地元自治会分は世帯

単位での回答なので、調査方法が違っており、同列には比べられないのではないか？

委員長) それぞれのアンケートの中で、年代別、男女別などの傾向は把握できると思うので、プラン作成の基礎データとして活用していけばいいと思う。

委員) アンケート結果を見ると、年代別で求める施設がかなり異なっているようだが、行政としてはあらゆる年代のニーズに応える必要があると思われる。しかしながら、既存建物の活用法のコンセプトを考える中で、すべてのニーズに公平に対応するのは限界があると思うが、どのように考えるのか？

委員長) おっしゃるとおり、全体としてどのようなコンセプトで進めていくのか、つまり理念を考えておくことは、非常に重要であると思われる。

回答) 次回の第4回委員会では、複数のプランを提示することになるが、それぞれのプランがどのようなコンセプトに基づくものなのかを示せるようにしたい。総花的なものだと魅力のない施設になることも考えられるので、どこに比重を置くプランなのかを整理し、それぞれの特色を出せるようにしていきたい。

委員長) それでは、先ほどのスケジュールに沿って、今回は来年3月の開催になる。いよいよ具体的な内容に入っていくと思うので、引き続き、委員の皆さまの活発な議論をお願いしたい。

5 閉会

署名

壬生町本庁舎跡地等活用検討委員会

委員

瀬戸洋子

委員

関和重行